ラサ工業株式会社

2027年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

2026年11月11日

証券コード：4022

目　　次

1. 事業概要

2. 2027年3月期 第2四半期（中間期）実績

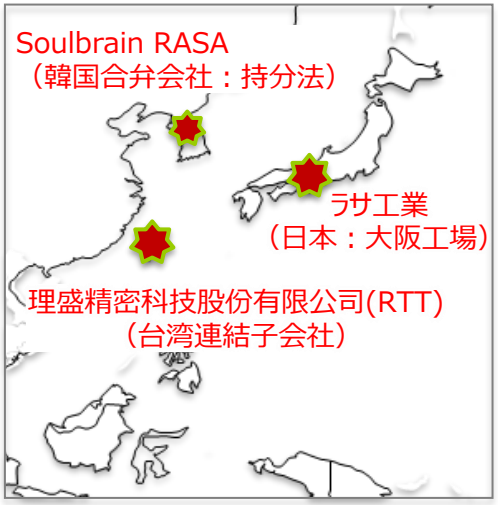
3. 参考資料

1. 事業概要

事業概要

会社概要

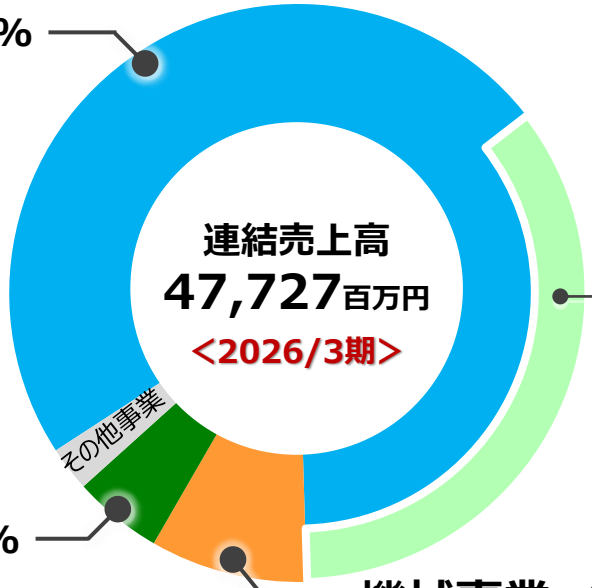
商　号	ラサ工業株式会社
本　社	東京都千代田区外神田一丁目18番13号
創　業	1913（大正2）年 5月 1日
設　立	1918（大正7）年 6月 26日
従業員数	631名（連結）　<2026年3月31日現在>



▶半導体向け高純度リン酸の製造体制

化成品事業　39,956百万円／83.7%

- リン系製品
  半導体向け高純度リン酸（エッチング液）、
  一般品（金属表面処理剤、食品添加物など）、
  リン酸塩など
- 凝集剤（上下水・工業用水処理、
  電子基板向けエッチング剤など）
- その他製品（コンデンサー向け原料、消臭剤など）



うち、高純度リン酸
売上高　16,796百万円／35.2%
〔 ラサ工業（大阪工場）と台湾子会社の合計 〕

- 半導体向け高純度リン酸（エッチング液）では、グローバルトップシェア

電子材料事業　2,395百万円／5.0%

- 化合物半導体向け高純度無機素材
  （高純度ガリウム、インジウム、赤リン、酸化ホウ素など）
- 放射性ヨウ素吸着剤（原子力発電所フィルターベント向けなど）

機械事業　4,197百万円／8.8%

- 建設機械（破砕機、選別機、粉体機器、
  電子ビーム溶接加工（半導体製造装置、宇宙分野など））
- 土木機械（掘進機（上下水道向け））

2. 2027年3月期 第2四半期（中間期）実績

2027年3月期第2四半期（中間期） 決算概要

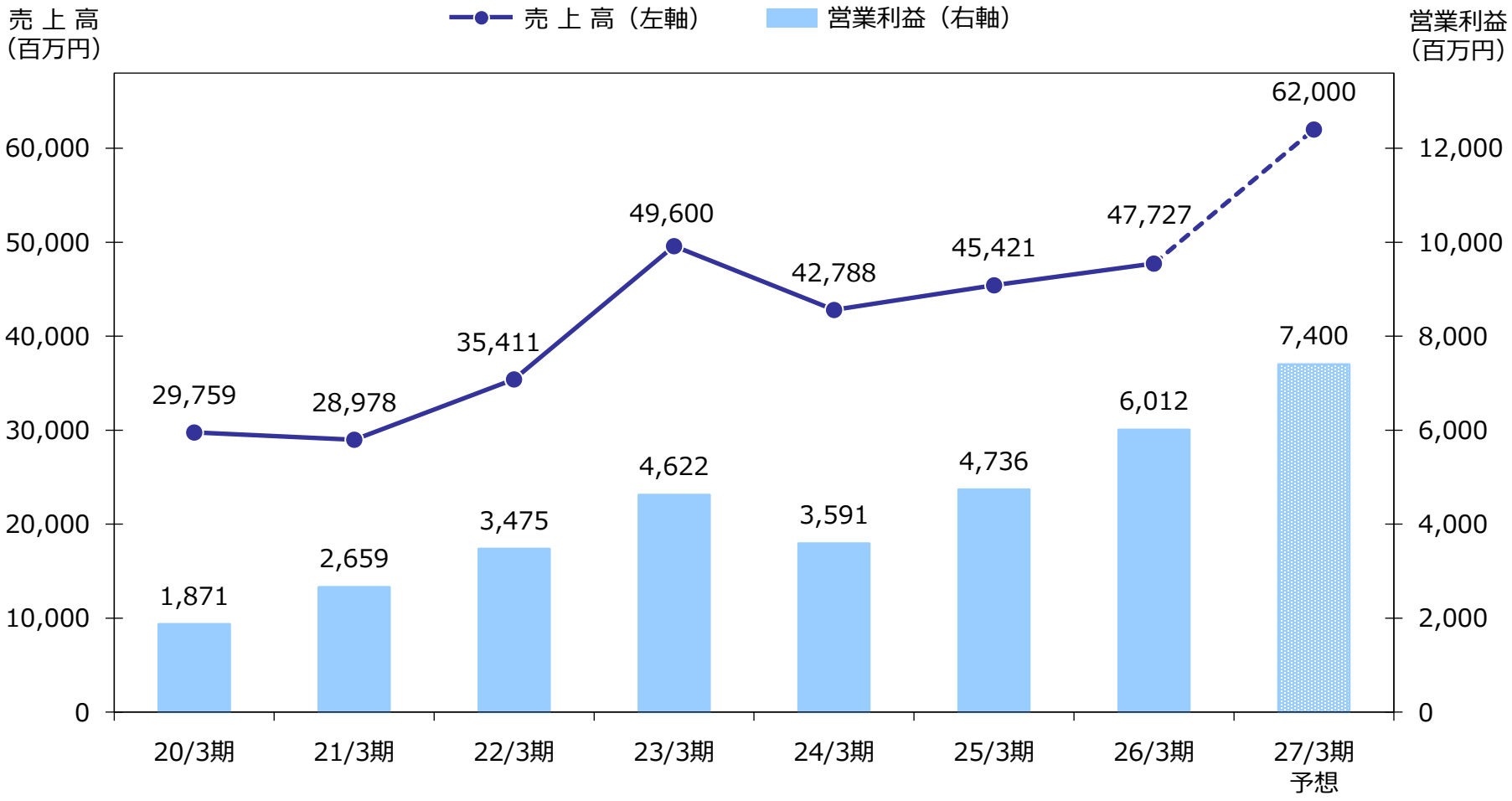
- 化成品事業の半導体向け高純度リン酸（国内・海外向け）や購入品販売、電子材料事業の化合物半導体向け高純度無機素材が堅調に推移し、機械事業も低調だった前期1Qからの反動もあり、売上高は前年同期比で26.8%の増収。
- 営業利益は、堅調な化成品事業および電子材料事業を中心に、前年同期比で21.1%の増益。

（単位：百万円）

	2026/3期 中間期	2027/3期 中間期	増減	前年同期比	中間期 期初予想	増減
売　上　高	22,698	28,782	6,084	26.8%	26,000	2,782
営 業 利 益	2,860	3,463	602	21.1%	2,800	663
経 常 利 益	2,950	3,604	654	22.2%	2,900	704
親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	2,046	2,518	472	23.1%	2,000	518
（減価償却費）	875	1,012	137	15.7%		

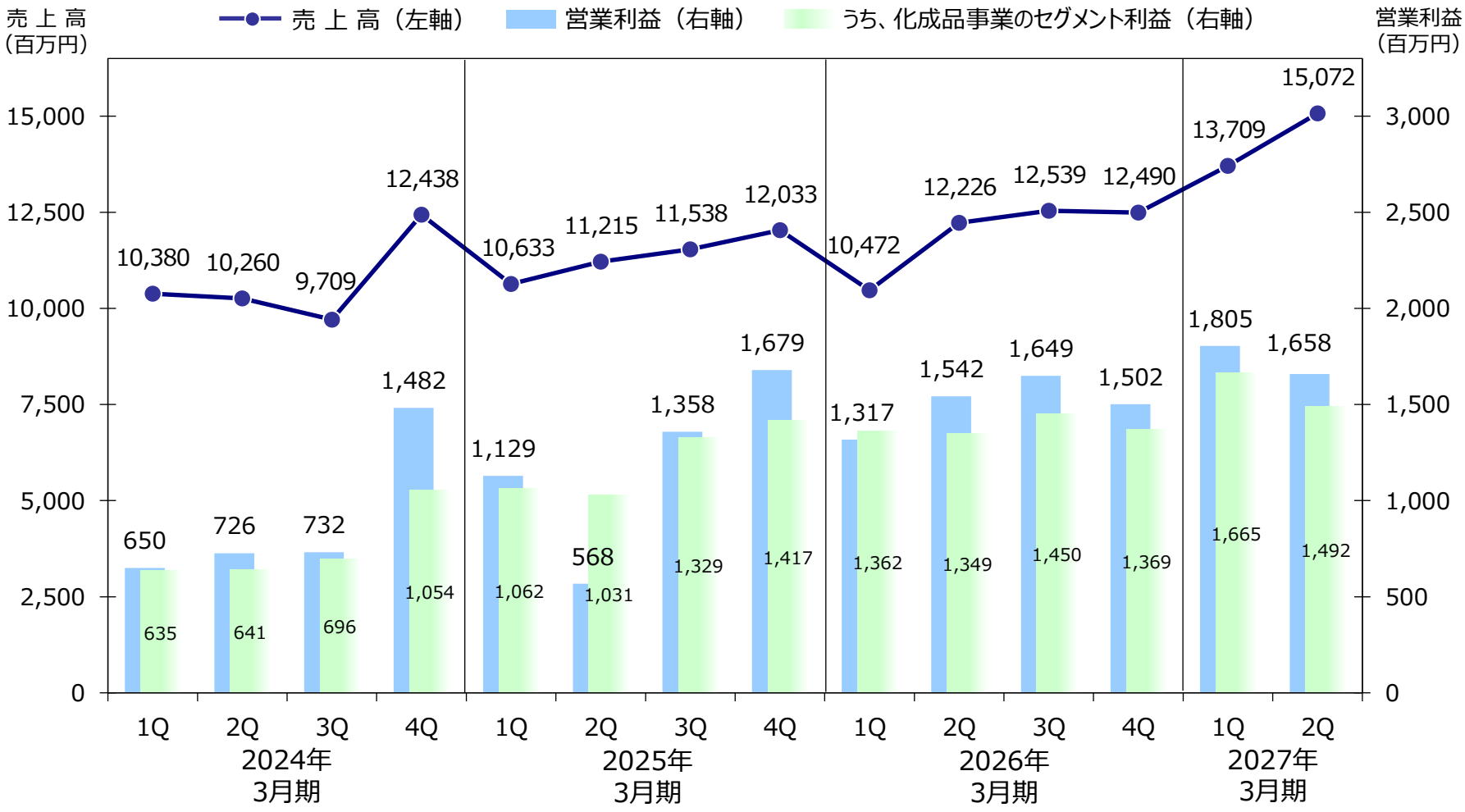
年度業績の推移

売上高と営業利益の推移



四半期業績の推移

四半期売上高と営業利益の推移

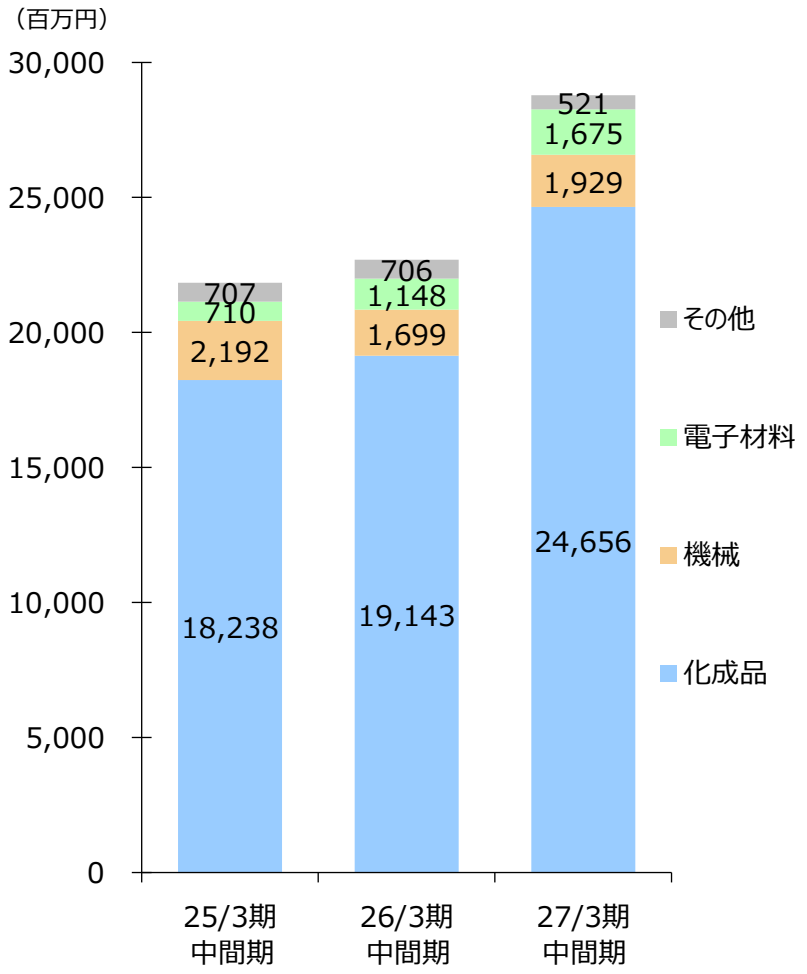


2027年3月期 第2四半期（中間期）セグメント別概要（売上高）

売上高の推移

（単位：百万円）

	2026/3期 中間期	2027/3期 中間期	増減	前年 同期比
化　成　品	19,143	24,656	5,512	28.8%
機　　械	1,699	1,929	229	13.5%
電 子 材 料	1,148	1,675	526	45.9%
そ　の　他	706	521	△ 184	△ 26.1%
合　　計	22,698	28,782	6,084	26.8%



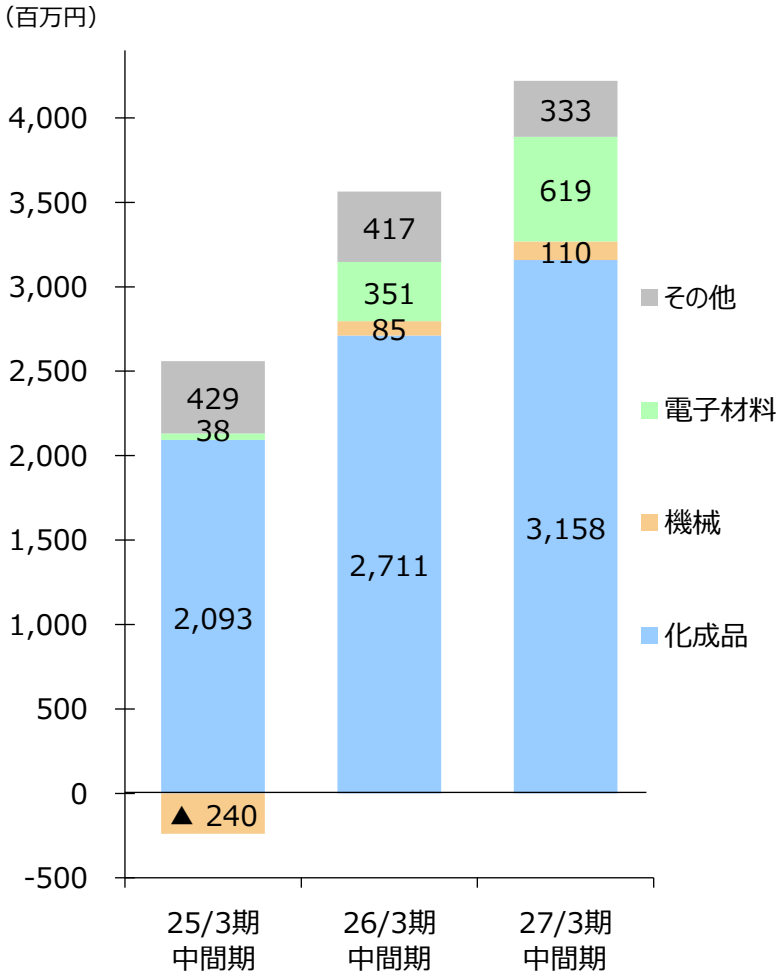
2027年3月期 第2四半期（中間期）セグメント別概要（利益）

セグメント利益の推移

（単位：百万円）

	2026/3期 中間期	2027/3期 中間期	増減	前年 同期比
化成品	2,711	3,158	446	16.5%
（利益率）	14.2%	12.8%		
機械	85	110	25	29.4%
（利益率）	5.0%	5.7%		
電子材料	351	619	267	76.2%
（利益率）	30.6%	37.0%		
その他	417	333	△ 83	△ 20.1%
（調整額）	△ 705	△ 758	△ 53	–
合計	2,860	3,463	602	21.1%
（利益率）	12.6%	12.0%		

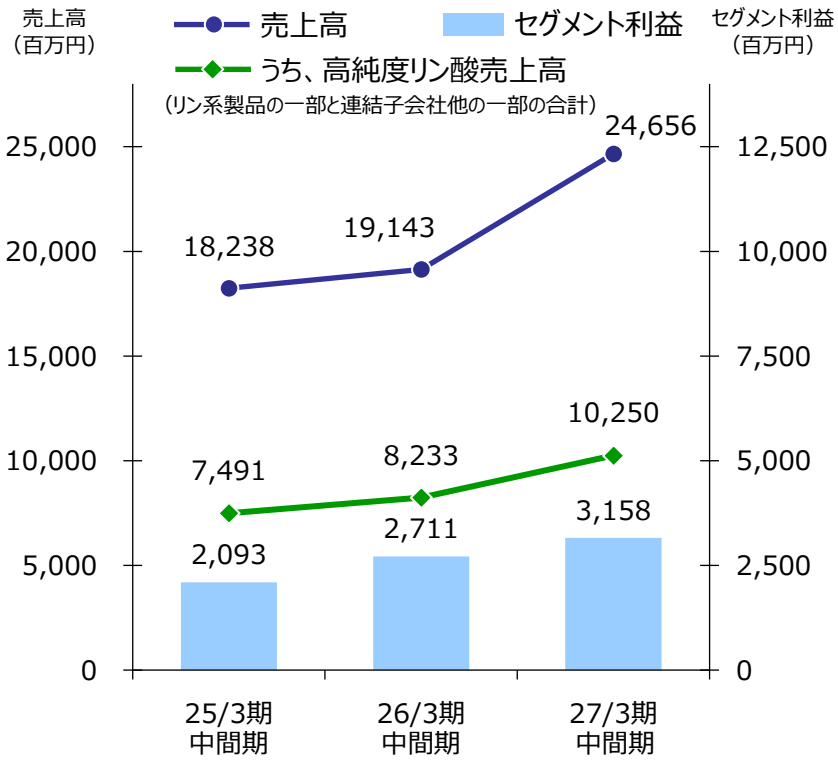
※各セグメントのセグメント利益には、全社費用などを配賦しておりません。
（全社費用などは、表中の調整額に該当します。）



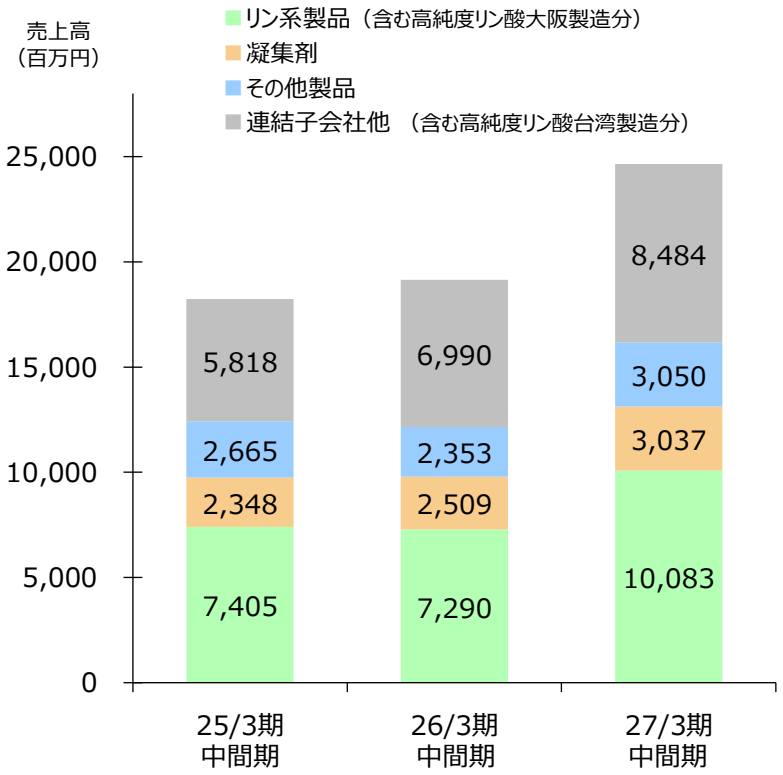
化成品事業

- リン系製品は、国内・海外向けの半導体向け高純度リン酸、及び購入品販売が堅調に推移し、増収。
- 凝集剤は、上水道向け製品が堅調に推移し、増収。
- その他製品は、コンデンサー向け原料が堅調に推移し、増収。
- セグメント利益は、リン系製品全般で主原料のコスト増、台湾連結子会社の能力増強設備に係る償却開始の影響を受けたものの、高純度リン酸の増収、堅調な凝集剤・その他製品の販売が寄与し、全体では446百万円（+16.5%）の増益。

【化成品事業】 売上高とセグメント利益の推移

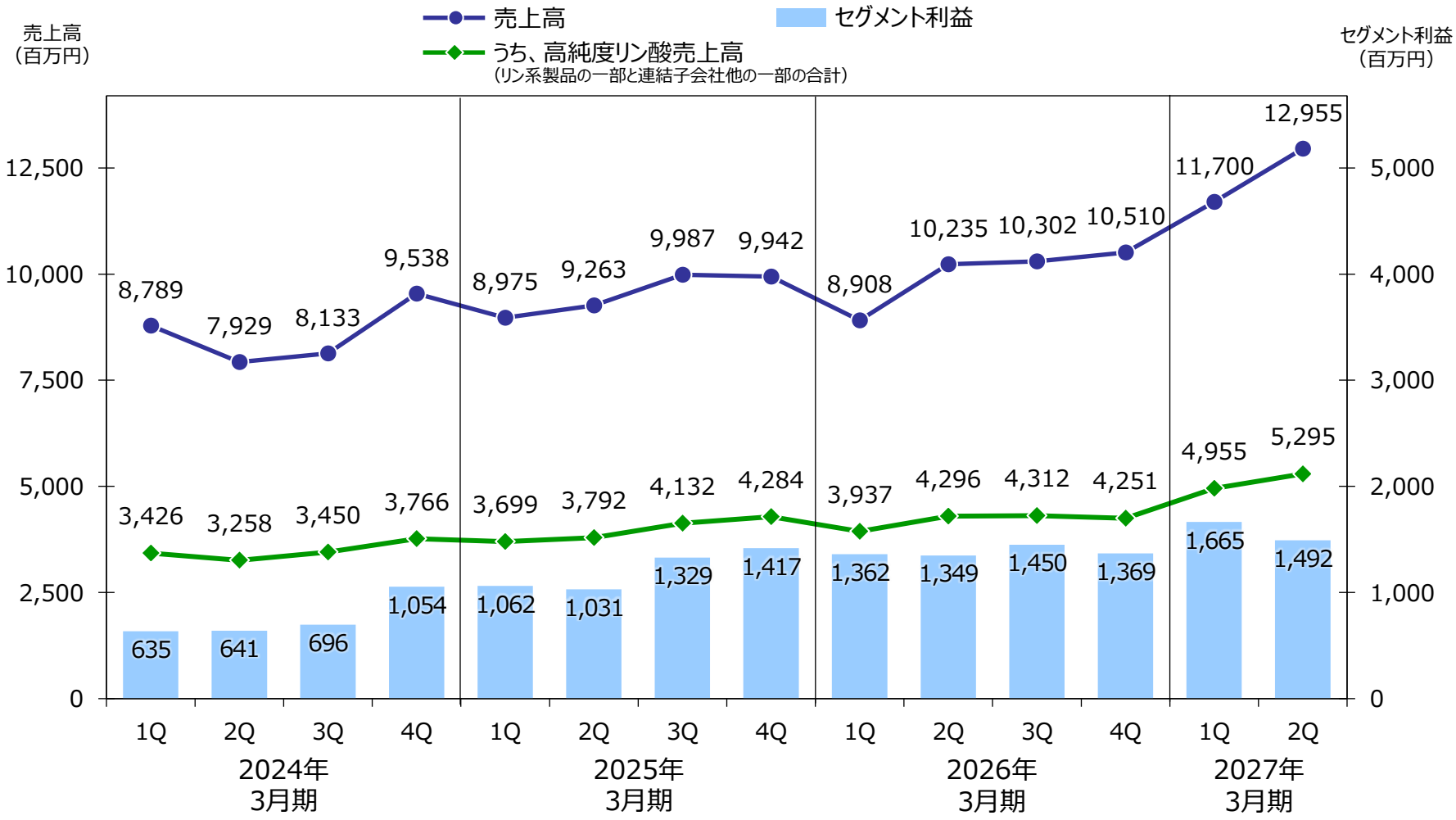


【化成品事業】 製品別売上高の推移



化成品事業（四半期業績）

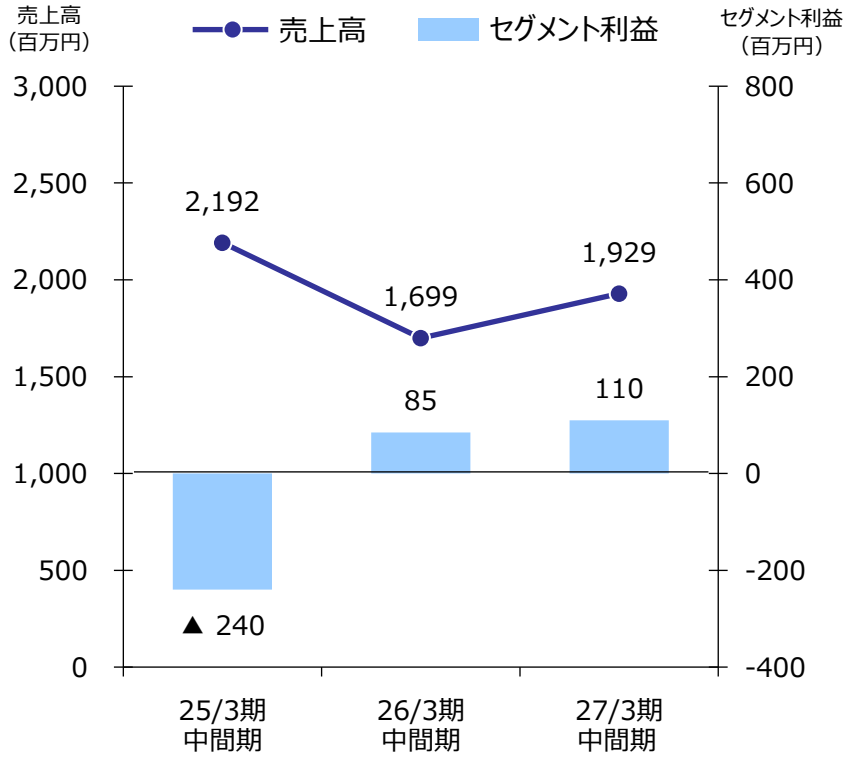
【化成品事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



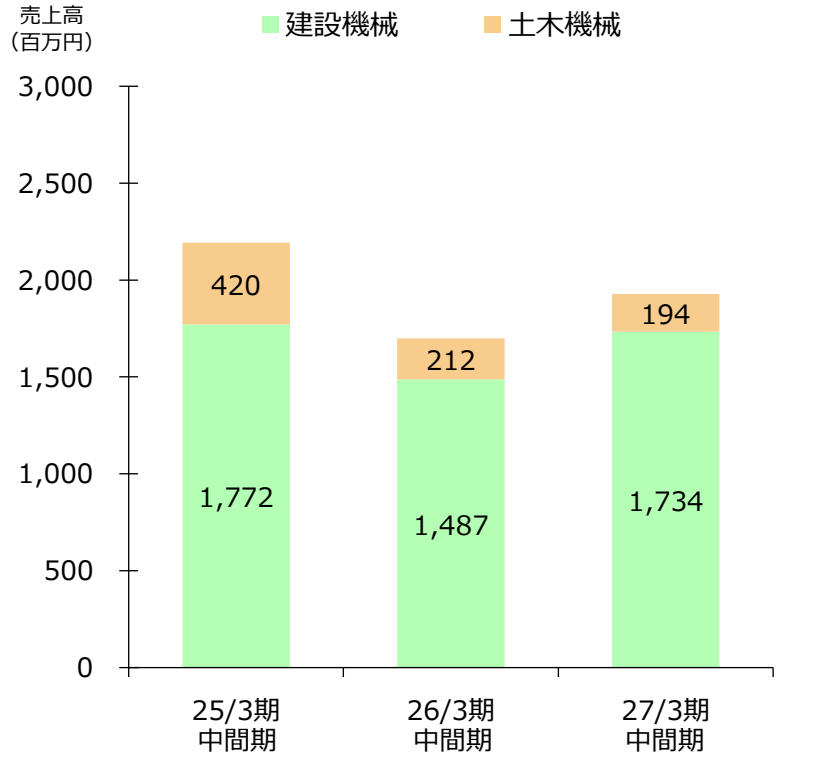
機械事業

- 建設機械は、破砕機等の部品販売がやや低調だが、プラント販売や電子ビーム溶接加工が堅調に推移し、全体では増収。
- 土木機械は、掘進機のレンタルが回復基調となるも、同販売が低調であったため、全体では減収。
- セグメント利益は、建設機械の増収が寄与し、25百万円（+29.4%）の増益。

【機械事業】 売上高とセグメント利益の推移

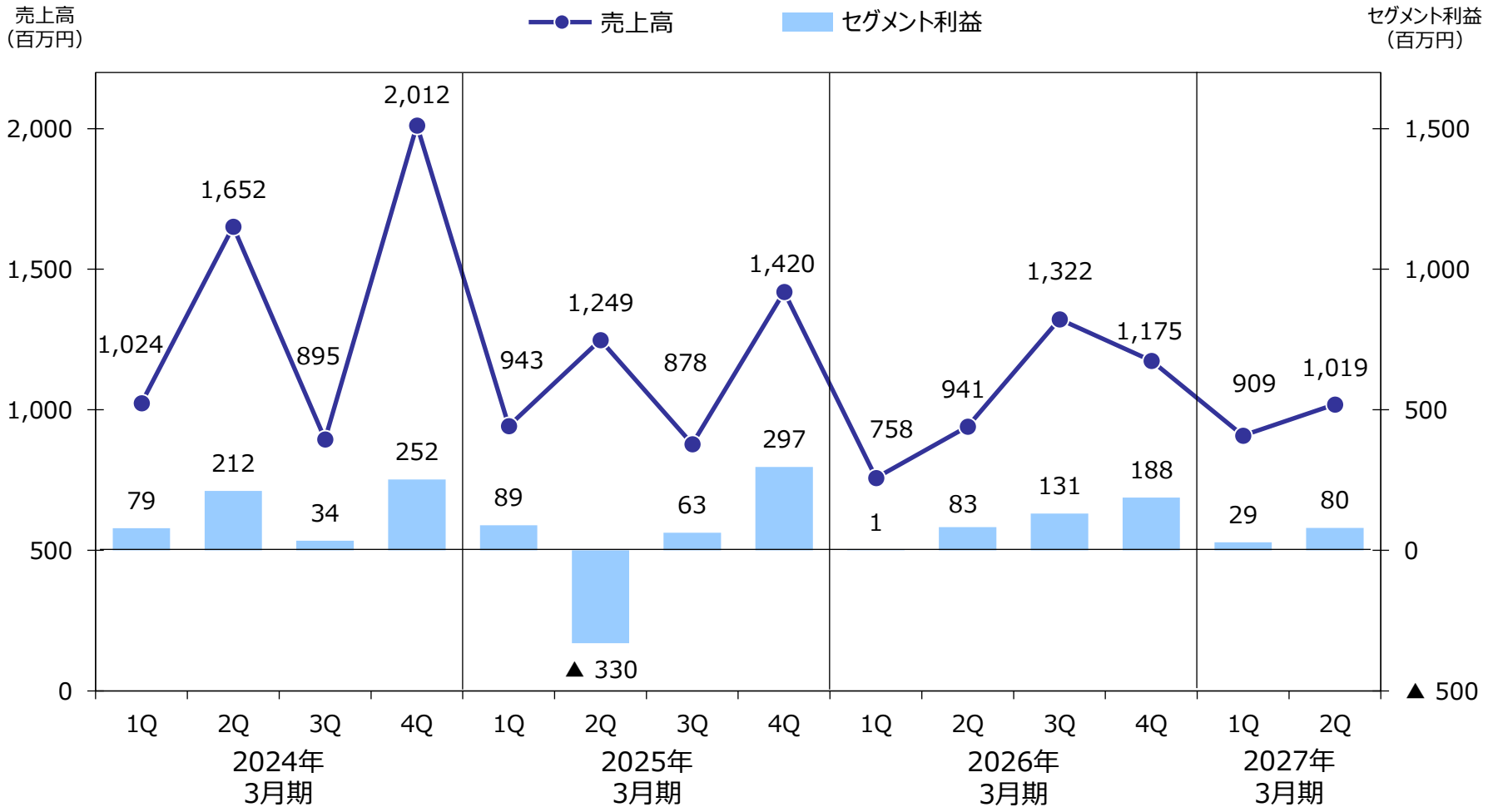


【機械事業】 製品別売上高の推移



機械事業（四半期業績）

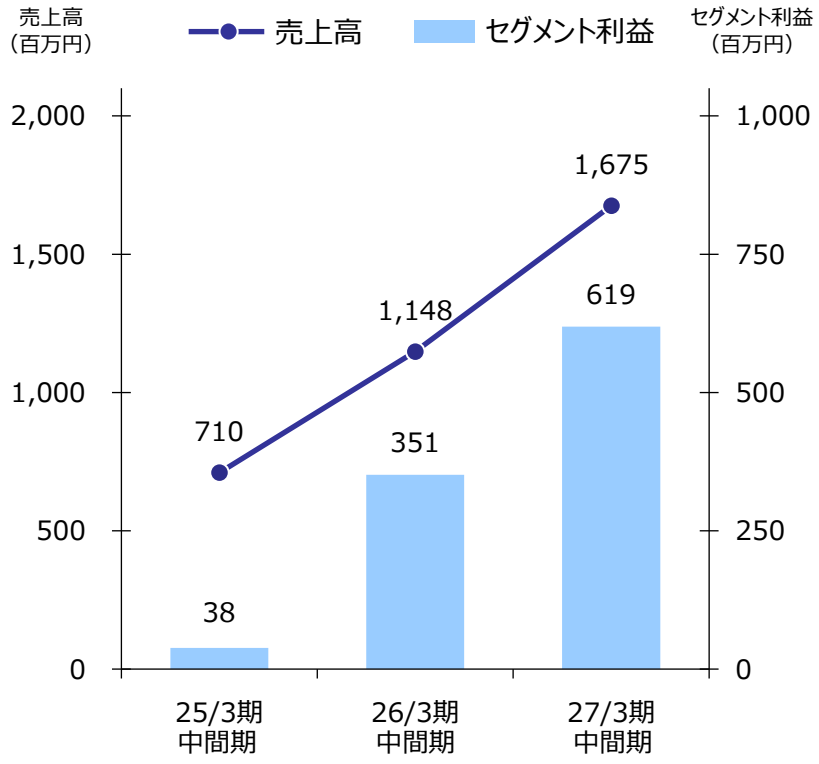
【機械事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



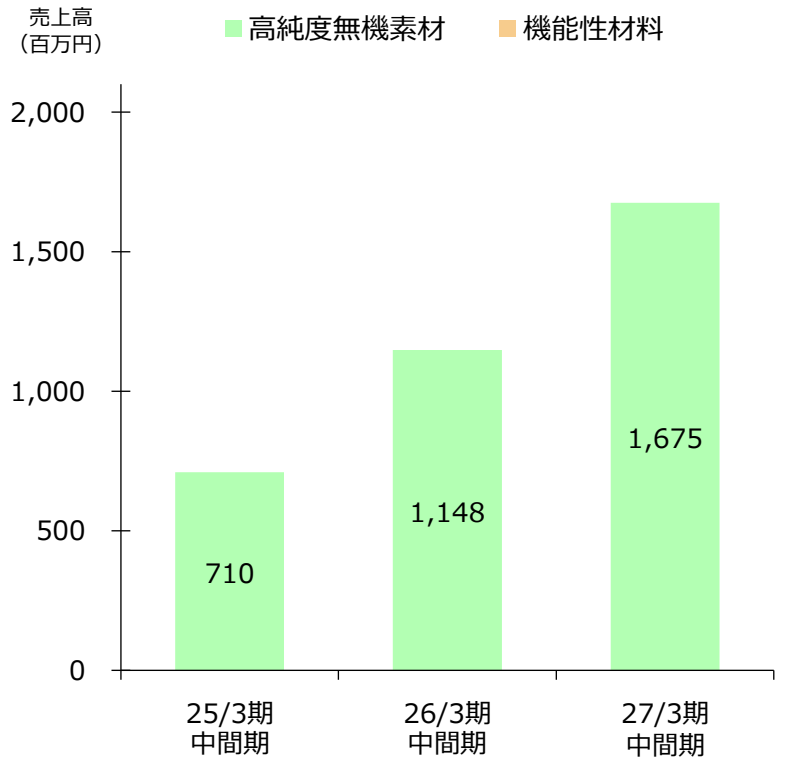
電子材料事業

- 化合物半導体向け高純度無機素材は、化合物半導体市況が堅調に推移したことから、赤リン・インジウム、酸化ホウ素が増収。また、ガリウムはスポット販売もあり増収。
- 機能性材料は、受注に向けた営業活動を継続中。
- セグメント利益は、増収に伴い、267百万円（+76.2%）の増益。

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の推移

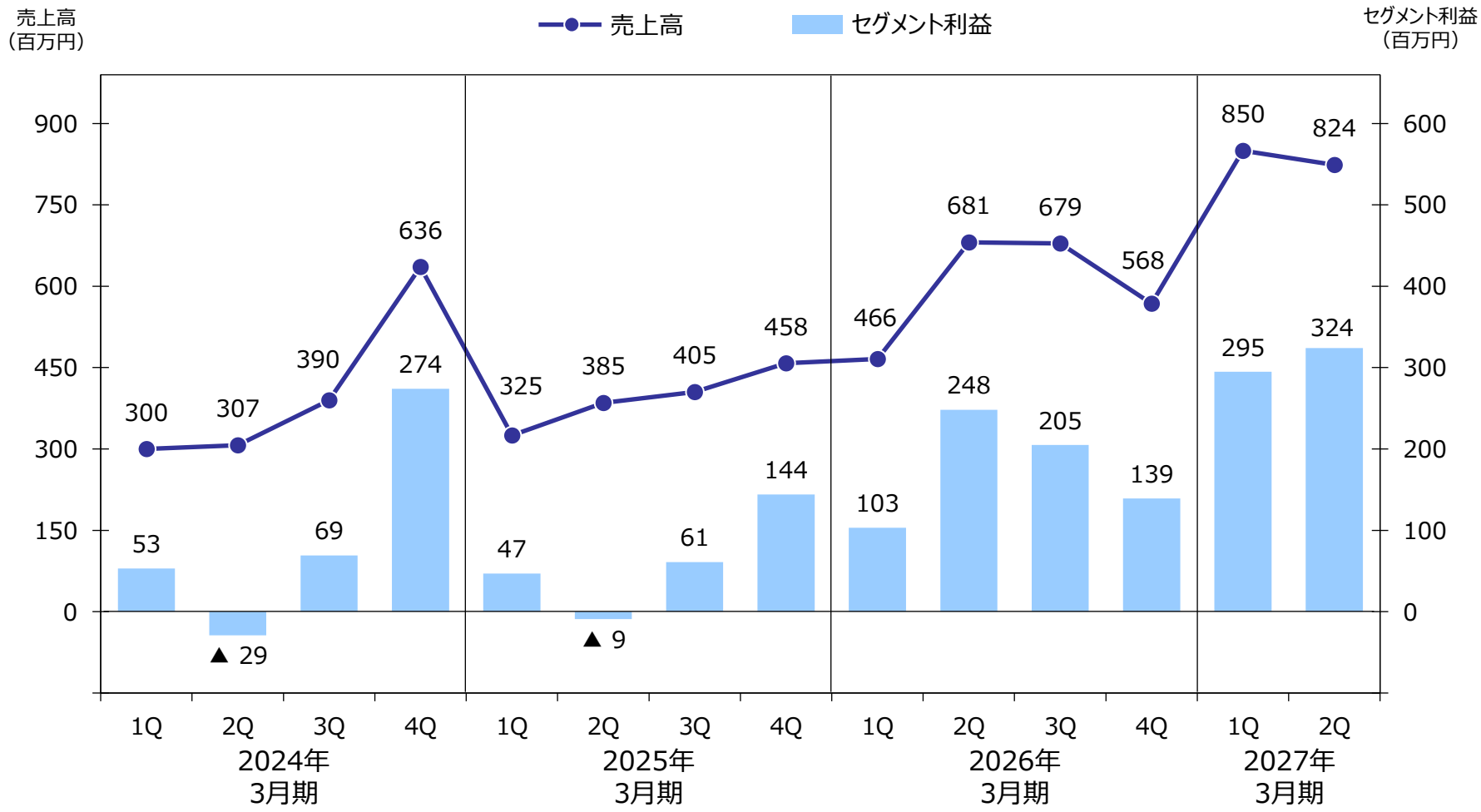


【電子材料事業】 製品別売上高の推移



電子材料事業（四半期業績）

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



損益計算書（連結）

（単位：百万円）

	2026/3期 中間期	2027/3期 中間期	増減	前年同期比
売上高	22,698	28,782	6,084	26.8%
売上原価	17,351	22,683	5,331	30.7%
販売費・一般管理費	2,485	2,635	149	6.0%
営業利益	2,860	3,463	602	21.1%
営業外収益	257	312	54	21.1%
うち持分法投資利益	187	251	63	34.0%
営業外費用	168	171	2	1.5%
経常利益	2,950	3,604	654	22.2%
特別利益	–	–	–	–
特別損失	–	–	–	–
税金等調整前中間純利益	2,950	3,604	654	22.2%
親会社株主に帰属する中間純利益	2,046	2,518	472	23.1%
（減価償却費）	875	1,012	137	15.7%

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	2026年3月末	2026年9月末	増減
流動資産	24,646	26,078	1,432
現金及び預金	4,823	4,446	△ 376
受取手形、売掛金、電子記録債権	11,853	13,250	1,397
棚卸資産 ※	7,634	8,009	375
固定資産	25,327	26,396	1,068
有形固定資産	20,155	20,933	778
無形固定資産	48	44	△ 3
投資その他の資産	5,123	5,417	294
資産合計	49,973	52,474	2,501
流動負債	11,202	12,379	1,177
支払手形、買掛金、電子記録債務	3,686	4,288	602
短期借入金	3,814	3,788	△ 26
固定負債	6,930	6,457	△ 472
長期借入金	3,693	2,928	△ 765
退職給付に係る負債	2,566	2,560	△ 6
純資産合計	31,840	33,637	1,796
株主資本	29,406	31,043	1,637
その他の包括利益累計額	2,434	2,593	158
＜自己資本比率＞	63.7%	64.1%	0.4%

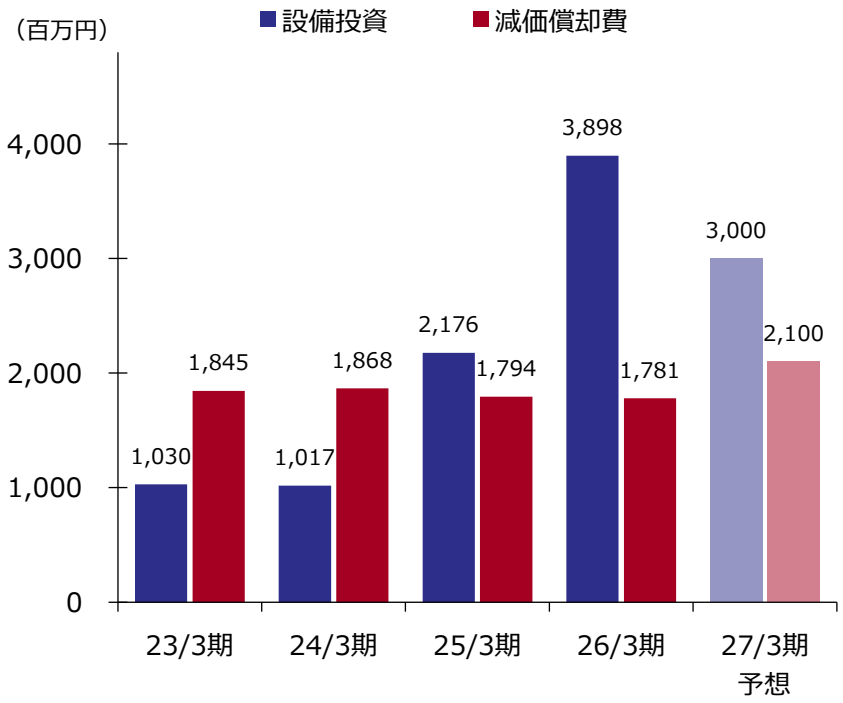
※ 棚卸資産＝商品及び製品＋仕掛品＋原材料及び貯蔵品

設備投資・減価償却費及び研究開発費の推移

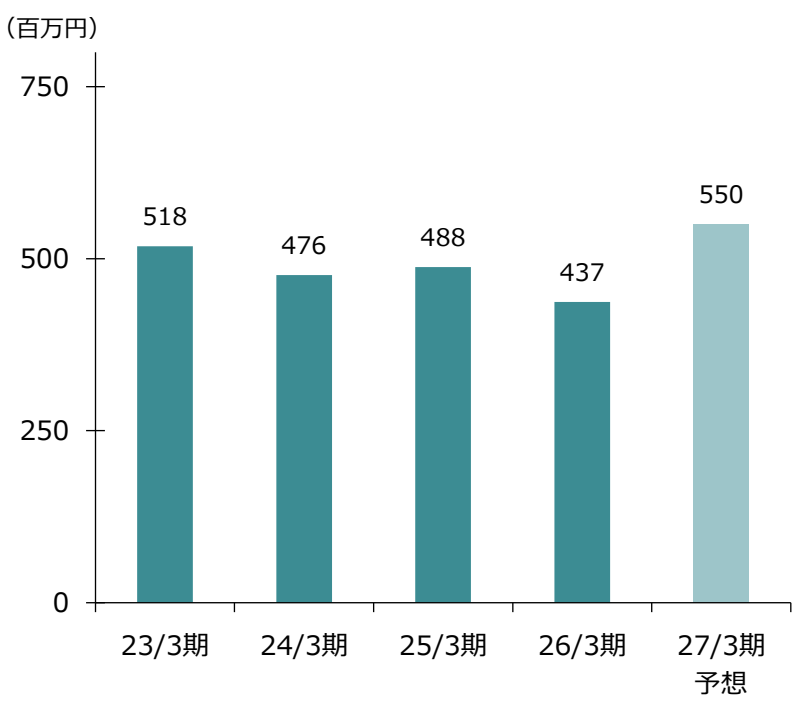
（参考情報：2026/5/14開示内容から変更なし）

- 設備投資は、2026年3月期に台湾子会社の半導体向け高純度リン酸の製造設備増設を実施済み。
  2027年3月期は化成品事業・電子材料事業を中心に更新・増強投資を実施予定。
- 研究開発費は、主に開発センターにおける研究開発活動に係る費用。

設備投資・減価償却費



研究開発費



2027年3月期の業績予想（2026年11月4日見直し）

- 化成品事業は、堅調な半導体市場を背景として半導体向け高純度リン酸が国内外ともに堅調に推移する見込み。リン系製品全般の主原料等のコスト増加の影響はあるが、高純度リン酸の増収、堅調な凝集剤・その他製品が寄与して増益を見込む。
- 機械事業は、足元の受注状況等を踏まえ、好調な建設機械のプラント販売や電子ビーム溶接加工を中心に、概ね当初予想並みで推移する見込み。
- 電子材料事業は、AIデータセンターにおける光トランシーバー関連の需要拡大を背景に、化合物半導体向け高純度無機素材の販売が高い水準で推移する見込み。
- 当期純利益は、下期の特損計上見込（固定資産処分損１億円強）を織り込むも、増益を見込む。

（単位：百万円）

	2026/3期	2027/3期予想	増減	前年同期比	（参考）期初予想
売 上 高	47,727	62,000	14,273	29.9%	54,000
化成品事業	39,956	52,300	12,343	30.9%	45,000
機械事業	4,197	5,300	1,102	26.3%	5,300
電子材料事業	2,395	3,200	804	33.6%	2,500
その他の事業	1,176	1,200	23	2.0%	1,200
営業利益	6,012	7,400	1,387	23.1%	6,200
化成品事業	5,531	6,550	1,019	18.4%	5,800
機械事業	405	550	144	35.6%	500
電子材料事業	696	1,200	503	72.2%	700
その他の事業	746	700	△ 47	△ 6.2%	700
全社費用など	△ 1,367	△ 1,600	△ 233	–	△ 1,500
経常利益	6,191	7,600	1,408	22.7%	6,300
親会社株主に帰属する当期純利益	4,359	5,200	841	19.3%	4,300
1株配当金	36円	43円	7円	–	36円
想定為替レート（1ドル）		161円			155円

※2026年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割実施。 2026年3月期の1株当たり配当金は当該株式分割の影響を遡及的に反映して表示。

トピックス　台湾連結子会社による新工場建設

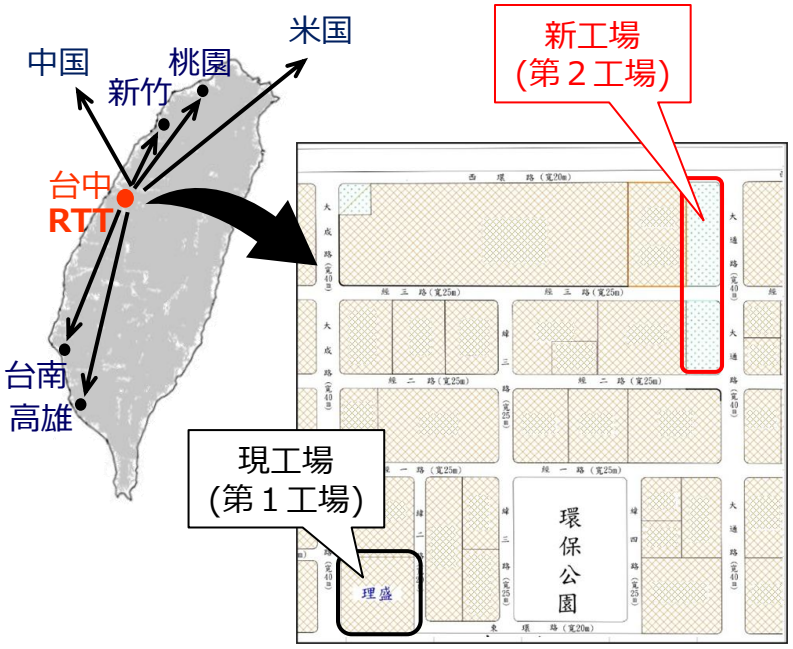
半導体向け高純度リン酸の新工場建設決定（2028年度竣工予定）

台湾連結子会社

会社名　理盛精密科技股份有限公司
（Rasa Technology Taiwan Ltd.）

所在地　臺中港科技産業園区内
（台中港直結の工業団地内）

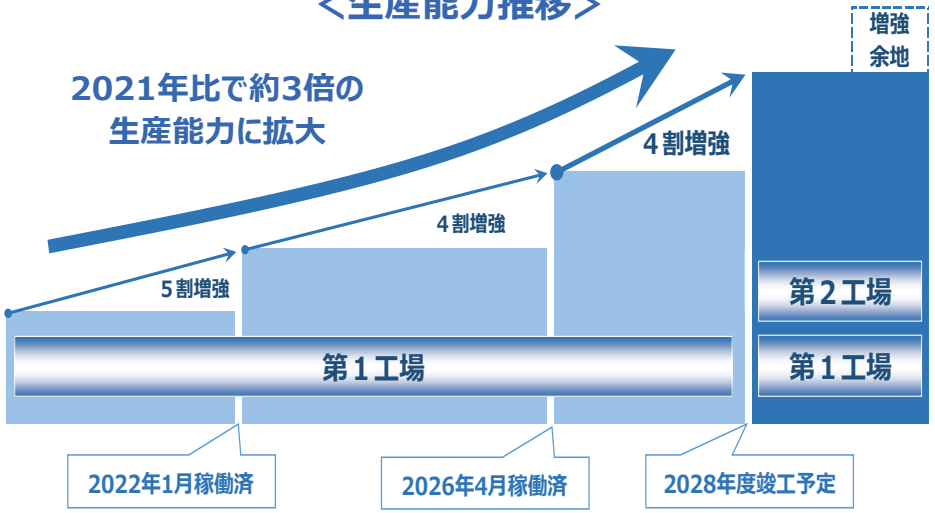
設　立　2003年12月17日



＜新工場概要＞

総投資額	約38億台湾ドル（総額約188億円）
投資内容	事務所･ユーティリティ設備、原料貯槽、リン酸製造･精製設備、製品充填設備･自動倉庫、製造･出荷プロセス自動化
敷地面積	約17,200m²
竣工時期	2028年度（予定）
生産能力（第１＋第２工場）	既存能力（2026年4月増強後）から４割アップ

＜生産能力推移＞



3. 参考資料

＜参考＞半導体向け高純度リン酸の供給体制

半導体向け高純度リン酸ではグローバルでトップシェア

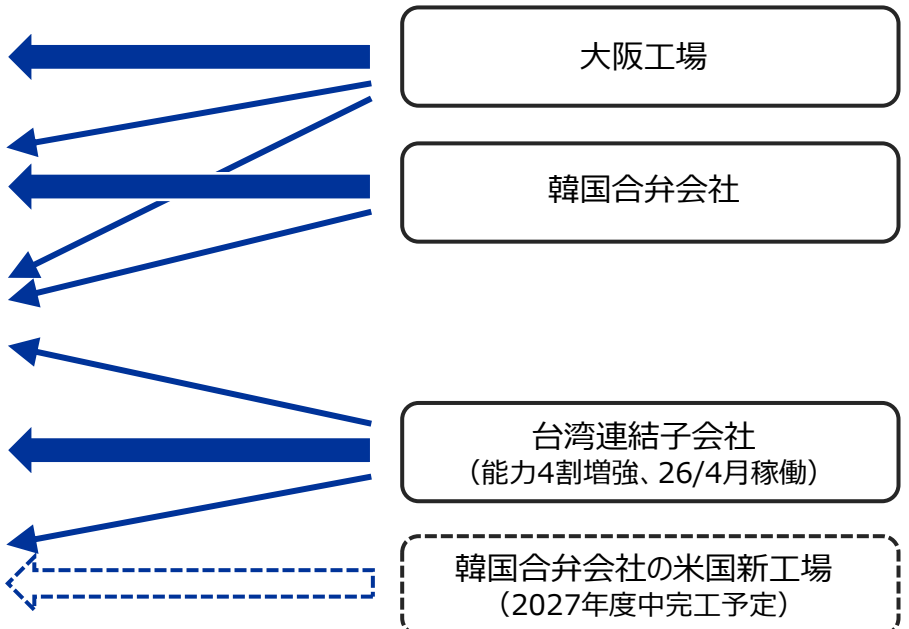
－品質面での強みに加えて、日本と台湾と韓国で現地生産・現地販売していることが強み－

2026年4月に台湾子会社増強設備が稼働開始、2027年には米国を加えた4か国生産体制に

半導体向け高純度リン酸（連結売上高の約1/3を占める主力製品）

- ✓ 当社の半導体向け高純度リン酸は、半導体製造（前工程）で、エッチング（ウェットエッチング）に使用される薬液。
- ✓ ロジック半導体やメモリ半導体（NAND・DRAM）などの製造に必要な材料。

地域	半導体種類	半導体メーカー
日本	メモリ・ロジック・アナログ	日本メーカー 台湾系メーカー 米国系メーカー
韓国	メモリ・ロジック	韓国メーカー
中国	メモリ・ロジック・アナログ	韓国系メーカー 台湾系メーカー 中国メーカー
台湾	ロジック・メモリ・アナログ	台湾メーカー 米国系メーカー
北米	ロジック・メモリ・アナログ	台湾系メーカー 韓国系メーカー 米国メーカー

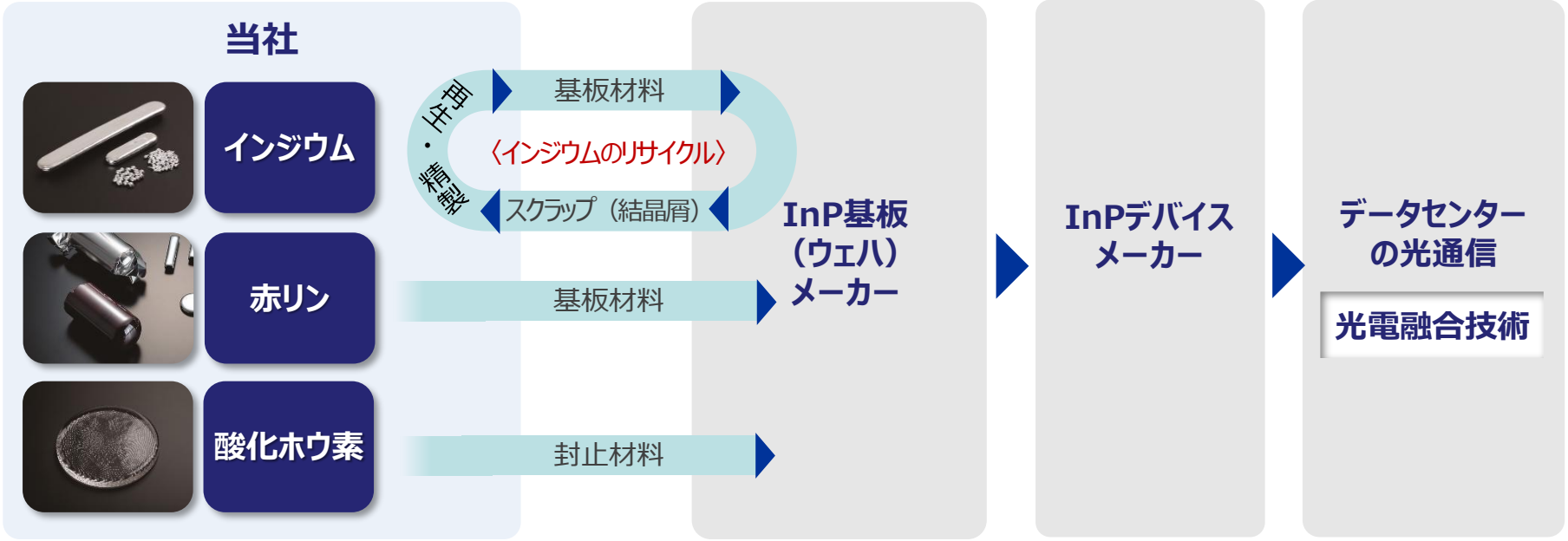


※韓国合弁会社は持分法適用会社です。

＜参考＞インジウムリン需要の増加（電子材料事業）

データセンターの光通信の受発光素子（光トランシーバー）向け インジウムリン（InP）の需要が増加

- インジウムリン（InP）は、インジウム（In）とリン（P）から成る化合物半導体であり、光通信を支える基幹材料として中長期的な成長が見込まれる。
- 次世代の情報通信基盤技術として開発が進む光電融合技術においても、インジウムリンの採用が期待される。
- 当社は、インジウムリン基板の原料であるインジウム、赤リン、酸化ホウ素を製造するとともに、インジウムのリサイクルに強みを有しており、サプライチェーン上流から循環型供給までを担う。



＜参考＞ラサ工業の歩み

1911年		「ラサ島燐砿合資会社」設立
1913年		「ラサ島燐砿株式会社」設立
1918年	機械	「鯛生金山株式会社」設立
1920年	化成品	大阪工場にて「過リン酸石灰」製造開始
1934年		社名を「ラサ工業株式会社」に改称
1936年		「田老鉱業所」開設
1937年		「ラサ島」を国より譲り受ける
1941年	機械	羽犬塚工場にて「産業機械」製造開始
1954年	化成品	大阪工場にて「黄リン・リン酸」製造開始
1958年	化成品	大阪工場にて「水処理凝集剤」製造開始
1965年	化成品	大阪工場にて「無水リン酸・金属表面処理剤」製造開始
1968年	電子材料	大阪工場にて「高純度無機素材の研究」に着手
1971年		「鉱山事業」より撤退
1972年	電子材料	大阪工場にて「高純度赤リン」製造開始
1973年	電子材料	大阪工場にて「酸化ホウ素」製造開始
1970年代 前半	機械	「環境機器」市場に参入

1980年	機械	「掘進機」分野へ進出開始
1980年	電子材料	宮古工場にて「放射性ヨウ素吸着剤」製造開始
1981年		「銅精錬事業」より撤退、「石油精製用触媒再生事業」に着手
1982年	電子材料	大阪工場にて「高純度ガリウム」製造開始
1983年		「肥料事業」より撤退
1984年	電子材料	大阪工場にて「シリコンウエハー再生事業」開始
1985年	電子材料	「三本木工場」(シリコンウエハー再生、高純度無機素材)開設
1986年	化成品	「大阪工場」を大阪市此花区から大正区に移転
1986年	機械	「電子ビーム溶接装置」導入
1987年	電子材料	三本木工場にて「インジウム」製造開始
1993年	化成品	「野田工場(水処理凝集剤)」開設
1996年	化成品	「伊勢崎工場(電子工業用薬品)」開設
2003年	化成品	台湾にて「理盛精密科技股份有限公司」設立
2010年	電子材料	「シリコンウエハー再生事業」より撤退
2016年	化成品	韓国にて「SoulbrainRASA Co.,Ltd(合弁会社)」設立

本資料に関する注意事項

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだものとご理解下さい。

ーIRに関する問い合わせ窓口ー
ラサ工業株式会社　経理部
03-3258-1835